

第 1606 圖

たぶのき  
一名 いぬぐす

**Machilus Thunbergii Sieb. et Zucc.**  
暖地諸州ノ主トシテ瀕海地方ニ多キ常緑大喬木ニシテ高サ凡 13m 許ニ達シ、幹ノ直徑 1m 及ブ者アリ。葉ハ有柄互生シ、枝端ニ集リ着キ、革質ニシテ厚ク稍光澤アリ、長倒卵形或ハ長橢圓形ニシテ先端稍凸頭ヲ呈シ下部狹窄シ、全邊ニシテ裏面多少白色ヲ帶ブ。五六月頃圓錐花序ヲ新葉ト共ニ出シ多數ノ花ヲ群開シ、花穂ノ腰部ニハ大形ノ芽鱗ヲ具フ。花ハ兩全花ニシテ黃綠色ヲ呈シ、花梗約 1cm 許アリ。花被片ハ内方三箇外方三箇宛アリ、線狀橢圓形ニシテ長サ 5mm 許。一雌蕊十二雄蕊アリ、雄蕊ハ四輪列シ、最内ノ三箇ハ假雄蕊ヲ成ス。漿果ハ球形ニシテ直徑 1cm 内外、初秋黒紫色ヲ呈シテ成熟シ、果梗ハ赤色ヲ帶ブ。材質ハ稍堅硬ニシテ多少クサ材ニ類似ス、たまぐすト稱スル者ハ老樹ノ木理卷雲紋ヲ呈スルヲ謂ヒ之レヲ貴ブ。和名たぶの木ノたぶハ其意不明、犬樟ハクサニ似テクサニ非ズ而シテ其材質劣ル故云フ。漢名 楠木(誤用)



くすのき科

第 1607 圖

ほそばたぶ  
一名 あをがし

**Machilus japonica Sieb. et Zucc.**  
南方諸州ノ山地ニ生ズル常緑喬木ニシテ幹高サ凡 13m 許ニ達シ直徑 70cm 及ブ。葉ハ有柄ニシテ互生シ、狹長長橢圓形或ハ披針形ニシテ先端鋭尖シ、全邊ニシテ薄キ革質ヲ呈ス。長サ 12-20cm 許アリ。初夏ノ候枝端ニ新葉ト共ニ稍粗ナル圓錐花序ヲ出シ淡黃綠色ノ小花ヲ綴ル。花ニ小梗アリ。花被ハ六深裂、三片宛内外二輪ヲ成ス。花被片ハ長橢圓形、長サ 5mm 許、短毛ヲ帶ブ。九雄蕊一雌蕊ヲ有シ、雄蕊ハ三輪列ヲ成ス。花梗ハ長サ 6mm 許。八月頃果實成熟シテ球形線黒色ヲ呈シ、直徑 9mm 許アリ、其基部ニ花蓋片ヲ殘存ス。和名あをがしハ青橘ニシテ綠色ガシノ意ナリ、此名ハ元來ばりばりのキノ一名称ナレバ重複ヲ恐レ之レヲ本種ノ正名ト爲ルコトヲ避ケタリ。



くすのき科

第 1608 圖

くすのき (樟)  
一名 くす

**Cinnamomum Camphora Sieb.**

暖地諸州ニ自生多キ常緑喬木ニシテ又處々ニ栽植セラレ往々極メテ大樹ト成リ多數ノ年所ノ經ルヨ見ル。幹高サ 20m 以上ニ達シ直徑 2m 及ブ者アリ。葉ハ互生シ、卵形ニシテ先端細長ク尖リ全縁ニシテ長キ葉柄ヲ有シ、長サ葉柄ト共ニ 8cm 内外、革質ニシテ表面光澤ヲ有ス。稍三行脈ヲ成ス。五月頃稍線形ヲ呈スル圓錐花序ヲ成シテ初メ白色後チ黃黄色ヲ呈スル小花ヲ開ク。花被ハ廣橢圓形ヲ成シテ六裂シ、各裂片ハ廣橢圓形ヲ成シ三箇宛内外二列ヲ成シ、雌蕊一箇雄蕊十二箇アリ、雄蕊ハ内外四輪ヲ成シ、最内輪ハ假雄蕊ヲ成ス。十一月ニ至リ凡 8mm 徑ノ球形果ヲ結ビテ黒熟シ、果皮内ニ圓キ一種子ヲ容ル。全體ニ佳香アリテ材ヲ用キ種々ノ器具ニ製ス、又樟腦ヲ採リ藥用トス。下總神崎神社庭ニ真正ノなんじゃもんじゃアリ即チ此くすのきニ外ナラズ、而シテ他處ノなんじゃもんじゃハ皆偽品ナリ。和名ハ「奇[くすしき]ノ義トイヘリ、ヨク石ニ化シ樟腦ヲ出スモノナレバ名クル成ルベシ」ト『和訓栞』ニ出ヅト雖モ定説タリ得ズ。漢名 楠(誤用、楠ノ眞品ハ日本ニ産セズ)



くすのき科

第 1609 圖

にくけい

**Cinnamomum Loureirii Nees.**

享保年間支那(交趾支那原産)ヨリ渡來シ爾後内地ニ擴マリ處々ニ栽植セララルルニ至リシ常緑喬木ニシテ高サ 8m 餘ニ達シ直幹直立シテ枝ヲ分ツコト多ク葉ヲ薄クコト繁ク小枝ハ綠色ヲ呈シ葉ト共ニ無毛ナリ。葉ハ有柄ニシテ互生シ卵形長橢圓形ニテ先端漸次尖リ、長サ葉柄ト共ニ 12cm 内外、著シキ三行ノ主脈ヲ有ス。夏月小枝ノ葉腋ヨリ長花梗ヲ出シ、聚繖花序ヲ成シテ淡黃綠色ノ小花ヲ開ク。萼ハ短筒形ヲ成シテ六裂シ三片宛内外二輪ヲ成シ、各裂片ハ略ボ同形、長橢圓形、長サ 3.5mm 許、短毛ヲ帶ブ。一雌蕊十二雄蕊アリ。雄蕊輪ハ四箇、最内ノ一輪ハ三箇ノ假雄蕊ヨリ成ル。漿果ハ橢圓形ニシテ黒熟シ長サ 1.5cm 許、一種子アリテ子葉厚シ。果皮ハ辛クシテ香氣ヲ有シ藥用ニ供セラル。和名にくけいハ之レヲ肉桂ト云ヘド元來此語ハ此種ノ特名ニ非ズシテ即チ此類ニ在テ根ニ近キ樹皮ノ最厚部分ヲ指セシメナリ、是レニ由テ觀レバ本種ヲにくけいと稱スルハ實ハ非ナレドモ從來ノ慣用ナレバ此ニハ單之レニ從フノミナリ。漢名桂(慣用)、桂ハ元來本種ノ名ニ非ズシテ其主品ハとんざんにくけい即チ桂(C. Cassia Bl. = C. aromaticum Nees.) ナリ、又せいろんにくけい即チ齒桂(C. zeylanicum Breyn.) モ桂ノ別種ナリ。



くすのき科

第 1610 圖

やぶにくけい

一名 まつらにくけい・くすたぶ・こがのき  
**Cinnamomum japonicum Sieb.**

我邦中部以南ノ暖地ニ生ジテ殊ニ近海地方ニ多ク又往々人家ノ周圍ニ栽植シアル常緑ノ喬木ニシテ高サ 10m 許ニ達シ、幹ハ直立シテ分枝シ樹皮ハ暗色ニシテ小枝ハ綠色ヲ呈ス。葉ハ有柄ニシテ對生或ハ互生シ、長橢圓形ニシテ先端尖リ全邊ニシテ革質ヲ呈シ長サ 6-10cm 許アリ、上面深綠色ニシテ光澤ヲ有シ裏面ハ淡白綠色ヲ呈シ、葉ノ背ニくけいニ似テ淡シ。六月、枝梢葉腋ニ長梗ヲ出シテ繖形線聚繖花序ヲ成シ淡黄色ノ小花ヲ開ク。萼ハ深ク六裂シ、裂片ハ三片宛内外兩輪列ヲ成シ、廣橢圓形ニシテ先端尖リ長サ 2.5mm 許、外面ニ短毛アリ。一雌蕊十二雄蕊ヲ有シ、雄蕊ハ四輪列ヲ成シ、最内輪ハ假雄蕊ヲ有ス。漿果ハ十一月頃ニ熟シテ黒色橢圓形ヲ呈シ凡 1.3cm 長アリ、一種子アリテ子葉肥厚ス。和名ハ藪肉桂ノ意、本種ハ肉桂ノ類ニシテ通常林中ニ生ズレバスク云フ、松浦肉桂ハ肥前ノ松浦ニテ本品ノ樹皮ヲ採リ松浦桂心ト稱スルヨリ此名アリ、たぶ・こがノ語原ハ未詳。漢名 天竺桂(誤用)



くすのき科

第 1611 圖

にくづく(肉豆蔻)

舊名 ししづく

**Myristica fragrans Houtt.**

(=M. moschata Thunb.; M. officinalis L. f.; M. aromatica Lam.)

未ダ其生苗我邦ニ來ラズ、元來まれい半島南部ノまらつか邊原産ノ常緑樹ニシテ高サ 7-10m 許、全體無毛ナリ。幹ハ直立シテ枝極ハ横方ニ擴ガリ、小枝ハ綠色ナリ。葉ハ短柄ヲ有シテ互生シ、卵形或ハ卵形長橢圓形ヲ成シ全邊ニシテ兩端銳形、長サ 12cm 内外アリテ質厚ク香氣アリ。夏月枝梢葉腋ニ短梗ヲ出シテ分枝シ花葉腋ヨリ短ク微黄ヲ帶ビタル小白花ヲ開ク。雌雄異株。萼ハ壺狀鐘形ヲ呈シ端正ニシテ三裂シ下部ニ宿存性ノ小苞アリ。雌花ニハ雄蕊九乃至十二箇アリテ互ニ接着シ、花絲ハ上方離シ下方合一ス。雄花ニハ子房無ク、雌花ニハ一室ノ一子房アリテ花柱ハ極メテ短シ。漿果ハ短小梗アリテ下垂シ洋梨狀球形ニシテ一側ニ縱溝アリ、熟スレバ厚肉質ノ二殼片ニ開裂シ種子ヲ露ハス、長サ凡 5cm 許アリ。種子ハ果中ニ一類アリテ其表面ニ著シキ赤色ノ假種皮ヲ被フル。種子中ノ仁即チ所謂肉豆蔻(なつめく)ハ胚乳ニ被覆アリテ香氣アリ藥用又ハ香料ニ供セラル。和名ハ肉豆蔻ノ字音ナリ、ししづくノレシハ肉ノ和名ナリ。



にくづく科